THE ANNUAL REPORTS OF
HEALTH, PHYSICAL EDUCATION
AND SPORT SCIENCE
VOL.18,103-111,1999

原　著

スクーバ・ダイビング実習（専門野外教育Ⅰ）における学生による授業評価

Student Evaluation in the SCUBA Diving Intensive Course

千 足 耕 一*, 川 田 儀 博**, 永 嶋 秀 敏***

Kouichi CHIASHI*, Yoshihiro KAWADA ** and Hidetoshi NAGASHIMA ***

ABSTRACT

The purpose of this study is to investigate evaluation of the participants in the four-day SCUBA diving intensive course. The subjects are a total of 181 male and female students. To measure evaluation, the questionnaire including 35 items and free description is administered.

The following results were obtained:

1) 97.2% of participants evaluate SCUBA diving intensive course "very good" or "good". However we have to make better about "fishing", " VTR program" and "time budget".

2) The evaluation showed significant in 6 items between the periods. The leaders have to communicate more for the students.

3) Students opinions are described as "material 1". We need improvement in "programs" and "living conditions".

Key wards; SCUBA diving, Intensive Course, Student Evaluation

は じ め に

近年、大学や短期大学の体育実技において、学外集中授業として「スクーバダイビング」が行われるようになってきている。野外活動を取り入れた学外での合宿形式の授業では、受講生同士の一体感を得ることが出来ること、普段の生活を離れて新鮮な体験をすることが出来ることや、自然環境の理解につながるなど、学内の授業では得にくい良さを得ることができる[5]。

国士舘大学体育学部では専門野外教育として野外活動の実習を位置付け、平成4年度より、スクーバダイビングをその種目に採用し、実習を積み重ねてきている。毎年、プログラムを修正しつつ、より良い実習を目指していることはいうまでもないが、一定の形での評価作業というものを行ってこなかったというのが実情である。

ところで、プログラムの評価方法としては、「フィードバック」と「自己評価」があるとされている。フィードバックとは他者からの評価を受けることであり、そのための方法としては、参加者からのアンケートをとる時間を設けることが良い方法であろうと述べられている。その他の評価方法としては、委託者からの評価、同僚からの評価、同業者からの評価などが評価の手法として考えられている[2]。

* 十文字学園女子短期大学（Jumonji Gakuen Women's junior college）
** 国士舘大学体育学部野外教育研究室（Laboratory of Outdoor Education, Faculty of Physical Education, Kokushikan University）
*** 国士舘大学体育研究所（Institute of Health, Physical Education and Sport Science, School of Physical Education, Kokushikan University）

表1　1998年度専門野外教育Ⅰ「スクーバ・ダイビング実習」コース概略

コース名	実施期間	受講者数	班構成	備　　考
1期	平成10年8月19日～22日	52	8	平均水温26.7℃，平均透明度6.0m
2期	平成10年8月22日～25日	44	8	平均水温26.2℃，平均透明度7.4m
3期	平成10年9月12日～15日	45	8	平均水温24.3℃，平均透明度3.5m
4期	平成10年10月8日～11日	40	6	平均水温24.2℃，平均透明度8.5m

そこで、今回は参加者である学生による授業評価をアンケート形式で行い、指導者側においてその結果を検討するための基礎資料とした。これはファカルティディベロップメントの一環として、授業の改善資料として活用すべく行われたものである。

研　究　方　法

Ⅰ．被検者

被検者は、国士舘大学体育学部の3年次生のうち専門野外教育Ⅰ「スクーバダイビング実習」を履修した学生であった。実習は4期にわけて実施され、それぞれの参加者は、1期52名、2期44名、3期45名、4期40名の合計181名であった（表1．参照）。

表2　1998年度専門野外教育Ⅰ「スクーバ・ダイビング実習」コース概略

	1日目	2日目	3日目	4日目
6:00				
7:00		起床・体操 朝食	起床・体操 朝食	起床・体操 朝食
8:00	多摩校舎集合	実習準備	実習準備	実習準備
9:00 10:00 11:00	出発	実習2	実習4 & 磯釣り	実習6 水中記念撮影 ログブック記入
12:00	大瀬崎着	昼食	昼食	閉講式 昼食
13:00	開講式			大瀬崎出発
14:00 15:00	実習1	実習3 & ロープワーク	実習5	
16:00	入浴	入浴	入浴	
17:00				多摩校舎解散
18:00	夕食	夕食	夕食	
19:00	学科 オリエンテーション	学科 潜水障害	ファイナルテスト	
20:00	水中コミュニケーション ログブック記入	ダイブテーブル ログブック記入	申請手続き ログブック記入	
21:00				
22:30	消灯・就寝	消灯・就寝	消灯・就寝	

Ⅱ．実習概要

1．プログラム

実施時期は表1のとおりであり、平成10年（1998年）夏季から秋季の4期にわけて実施された。実習地は、西伊豆大瀬崎であり、宿舎に宿泊して3泊4日の日程で表2のプログラムに従って実習が実施された。実習の事前には、参加者に対する学内でのオリエンテーションを実施し、授業の内容や目的に関する説明を行った。海洋での実習は、初日にスキンダイビングを行い、2日目から4日目までは、ロープワーク実習および釣り実習を含む5本のスクーバ

ダイビングを行った。実習内容は、表３のとおりであり、器材の使用方法を含む基本的な水中技術の習得や安全確保の方法を学ぶと共に、水中での楽しみが得られるように構成されている。１回のスクーバダイビングは、潜降から浮上までの水中滞在時間が30分以上となるように配慮して行われた。

表3　スキン・スクーバダイビングの実習内容

◎実習1	器材の使用方法と装着
	スキンダイビング　フィンワーク（水面移動）
	スノーケルクリア
	マスククリア
	マスクなしスノーケルのみでフィンキック（水面）
◎実習２（水深－１～２m）	スクーバユニットの準備・使用方法
	スクーバユニットへのセッティング・解除
	バディーシステム
	レギュレータ呼吸（水面・水中呼吸）
	BCD操作（水面）
	潜降・浮上方法の手順
	耳抜き
	マスククリア（半水没）
	レギュレータリカバリー（アームスイープ）
	ハンドシグナル
	片付け・手入れ
◎実習３（水深－３～６m）	潜降・浮上方法の手順
	耳抜き
	ハンドシグナルチェック
	潜降・浮上　練習
◎実習４（水深－６～８m）	水面移動
	深場での潜降
	レギュレータリカバリー（アームスイープ）
	マスククリア（全水没）
	水中浮力コントロール（フィンピボット）
	水中移動
	フィッシュウォッチング
◎実習５（水深－10m前後）	水面移動
	潜降・浮上（ロープを用いて）
	水中移動
	ホバーリング（中性浮力の確保）
	コンパスの使い方
	餌付け
	緊急浮上
◎実習６（水深－12～18m）	深場での潜降
	危険な生物の観察
	トリミング
	深場での中性浮力
	水中カメラ撮影
	浮上

２．班編成

１つの班は、５～６名の受講者によって編成され、その班に対して主になる指導者が１名と安全確保のためのバックアップサポートを行う指導者が１名の計２名が付き添うという体制で実習が行われた。受講生が、水に対して特別な恐怖心を抱いていたり、過度な不安を表出しているなどの特別な場合には、指導者１名に受講者１～２名で実習を行った。

指導者と受講生の比率・割合から、指導者は半日の実習で２グループを指導する体制をとっている。すなわち、指導者は２回の同内容のダイビングを続けて行う方式によって実習が行われている。

３．指導者

指導者は、実習責任者を含む９名程度のスタッフで実習を運営した。実習責任者以外の指導者は、外部の実技指導者が２名と技術指導を委託しているダイビングショップのスタッフ６名程度であった。実技指導にあたった指導者は、潜水指導団体から認められている指導員（インストラクター）の資格を所持していた。実技指導主任が全ての学生の様子を見ることができるよう、実習毎に指導者が受け持つ班を変えながら、海洋での実習プログラムを行っている。

Ⅲ．質問紙

授業評価票の質問項目は、本間ら[1]、綿ら[6]の研究報告を参考に、内容をスクーバダイビングにあてはまるよう修正した質問用紙を用いた。授業の目標等に関する10項目、技術の習得等に関する６項目、授業方法等に関する８項目、授業の成果等に関する８項目、学生自身の受講態度等に関する３項目を含む35項目からなるアンケート、および授業の総合的評

価、学生の視点から見た自由記述を含むA4・2枚の調査用紙を用いて行った。35項目からなるアンケートでは、それぞれの項目・内容について、非常にあてはまる（5点）、かなりあてはまる（4点）、どちらでもない（3点）、あまりあてはまらない（2点）、全くあてはまらない（1点）を与える5件法で回答を求めた。

Ⅳ．手続き

調査は、各グループともに授業の成績と全く関係がないことを説明し、無記名で最終日の閉講式終了後、集合調査法により実施した。調査用紙は、全て調査対象者に直接記入してもらう自記式質問形式であった。

統計処理にあたっては、市販の統計ソフトSPSS for Windows 9.0Jを用いた。

結果と考察

Ⅰ．授業評価の結果（自由記述を含めて）

授業の評価に対するアンケートは、参加者全員から有効回答が得られた。有効サンプル数は181通であった。用意された質問項目35項目のうち、「22.釣りのプログラムは良かった：3.31（S.D.＝1.32）」、「21.VTRを活用することは良かった：3.97（S.D.＝.99）」の2項目では平均値が3点台であったが、他の33項目については平均値が4.0を超え、高い評価が得られている。本間ら[1]、綿ら[6]、野口ら[4]の調査においても、それぞれの種目に応じた質問項目で調査を行い、高い評価を得たと報告されているが、これらのいずれの調査よりも全体的に見た数値が高かった。

このような高い評価値が得られることに関して、本間ら[1]は、一般的に実習直後には高揚感があらわれやすく、落ち着いてからの評価と差が生じる場合があると言及しているが、本調査も実習直後に行われたため、こういった傾向が生じた可能性も否定できない。また、国士舘大学体育学部の学生の特性として、教員や指導員の提供したプログラムを率直に受け入れ、積極的な実践や実習生活が行われた結果、高い評価値が得られた可能性もある。いずれにしてもこのことは、国士舘大学体育学部の集中実技における同様な調査結果の積み重ねを待たなければならない。

評価に関する35項目の回答結果において「非常にあてはまる」という回答が顕著であった項目は、「32.専門野外教育Ⅰスクーバダイビングは大学の授業としてふさわしい（85.1%）」、「33.私は、この授業で真剣に学ぼうと努力した（83.4%）」、「35.私は、この授業を他の学生に薦めたい（83.4%）」、「27.教師は十分に準備し熱意を持っていた（82.9%）」、「私は、この授業を通じて常に出席しようと心掛けた（82.3%）」、「20.資格を取得できるシステムは良かった（81.8%）」、「26.教師は十分な知識を持っていた（81.8%）」の7項目であり、これらの数値は80%をこえた。「かなりあてはまる」および「非常にあてはまる」を加えた割合を表4のV4＋V5で示しているが、ほとんどの項目で85%を越え90%台の数値を示した。その一方で、授業の方法に関する項目「22.釣りのプログラムはよかった（46.4%）」、「21.VTRを活用することは良かった（67.4%）」、「23.授業の時間配分は適切であった（78.4%）」の3項目においては、他の項目と比べて数値が低く、今後に課題を残す形となった。すなわち、授業の方法に関しては若干ではあるが改善の余地が残されていることを示しているものと考えた。

授業の総合的評価を5段階で尋ねた結果においても、回答者の80.1%が「非常に良かった」とし、「まあ良かった」との回答17.1%を合わせると97.2%が良かったとしている。この結果からも、本実習の評価は総合的に見て高かったのではないかと考えられた。しかし、総合的評価に関して、「普通」や「少し悪かった」と回答した学生がそれぞれ1名ではあるが存在していることも、事実として受け止めていくべきであろう。

表4　授業評価調査の結果（数値は％）　N＝181

項　　目	V5	V4	V3	V2	V1	V4+V5	Mean	S.D.
1.スクーバダイビングの基礎的な技術が習得できた	60.8	35.9	2.8	0.6	0.0	96.7	4.57	0.58
2.海、水中でのルール、エチケット、マナーが理解できた	60.8	33.7	5.5	0.0	0.0	94.5	4.55	0.60
3.スクーバダイビングの理論が理解できた	38.7	50.3	11.0	0.0	0.0	89.0	4.28	0.65
4.自然環境を認識することができた	54.1	38.1	7.7	0.0	0.0	92.2	4.46	0.64
5.危険性の認識と自己の安全の確保について理解できた	60.2	37.6	1.7	0.6	0.0	97.8	4.57	0.56
6.友人や教師とのコミュニケーションについて理解できた	62.4	30.4	7.2	0.0	0.0	92.8	4.55	0.63
7.集団生活のルール、エチケット、マナーについて理解できた	55.8	36.5	7.2	0.6	0.0	92.3	4.48	0.65
8.ダイビングを通じての水中の楽しみ方について理解できた	76.8	21.5	1.7	0.0	0.0	98.3	4.75	0.47
9.生涯スポーツとしてのスクーバダイビングを認識することができた	64.1	27.1	7.7	1.1	0.0	91.2	4.54	0.69
10.自己の能力水準が理解できた	51.4	35.9	11.6	1.1	0.0	87.3	4.38	0.73
11.ダイビング用具の扱い方および基本操作が習得できた	66.3	33.1	0.6	0.0	0.0	99.4	4.66	0.49
12.スクーバダイビングの基礎的技術（潜降・浮上・中性浮力の確保）が習得できた	49.2	44.8	5.5	0.6	0.0	94.0	4.43	0.62
13.水中でのアクシデントの対処法（レギュレータクリア・マスククリア）が習得できた	68.5	27.6	2.8	1.1	0.0	96.1	4.64	0.60
14.水中でのアクシデントの対処法（オクトパス呼吸・緊急浮上）が習得できた	53.6	42.5	3.3	0.6	0.0	96.1	4.49	0.59
15.運動量は十分に確保されていた	53.6	37.6	6.1	2.2	0.0	91.2	4.43	0.71
16.理論と実技を関連づけて学習できた	40.3	50.8	8.3	0.0	0.0	91.1	4.32	0.62
17.オリエンテーションは良かった	50.3	39.2	9.4	0.0	0.6	89.5	4.39	0.71
18.班分けの方法は適切であった	59.7	22.7	14.9	1.1	1.7	82.4	4.38	0.90
19.夜の講義は良かった	55.2	33.7	8.8	1.1	1.1	88.9	4.41	0.79
20.資格を取得できるシステムは良かった	81.8	13.8	3.3	0.6	0.0	95.6	4.78	0.52
21.VTRを活用することは良かった	33.7	33.7	23.8	1.7	3.3	67.4	3.97	0.99
22.釣りのプログラムは良かった	23.2	23.2	26.0	13.8	12.7	46.4	3.31	1.32
23.授業の時間配分は適切であった	41.4	37.0	15.5	3.9	1.7	78.4	4.13	0.93
24.テキスト・教材は良かった	54.1	39.2	5.0	0.6	0.6	93.3	4.47	0.67
25.授業は創造性に富むものであった	42.5	42.5	13.3	0.6	1.1	85.0	4.25	0.79
26.教師は十分な知識を持っていた	81.8	16.0	0.6	1.1	0.6	97.8	4.77	0.57
27.教師は十分に準備し熱意を持っていた	82.9	14.4	1.7	0.6	0.6	97.3	4.78	0.55
28.学生間のコミュニケーションは十分であった	60.2	32.6	6.1	0.6	0.0	92.8	4.53	0.64
29.授業において理解を助けるための補助手段は適切に用いられていた（資料・実施要項・VTR・フリー練習・テストなど）	53.0	37.6	8.3	0.6	0.6	90.6	4.42	0.72
30.教師とのコミュニケーションは十分であった	54.1	35.9	8.3	1.1	0.6	90.0	4.42	0.74
31.この授業から自分の期待していたものが満足された	68.5	22.1	8.3	1.1	0.0	90.6	4.58	0.69
32.専門野外教育。「スクーバダイビング」は大学の授業としてふさわしい	85.1	11.6	2.8	0.6	0.0	96.7	4.81	0.49
33.私は、この授業で真剣に学ぼうと努力した	83.4	13.8	2.2	0.6	0.0	97.2	4.80	0.52
34.私は、この授業期間を通じて常に出席しようと心掛けた	82.3	13.8	2.8	1.1	0.0	96.1	4.77	0.55
35.私はこの授業を他の学生に薦めたい	83.4	12.2	4.4	0.0	0.0	95.6	4.79	0.51
総合評価								
授業の総合評価（非常に悪かった：V1～非常に良かった：V5）	80.1	17.1	0.6	0.6	0.0	97.2	4.80	0.46

V1：全くあてはまらない　V2：あまりあてはまらない　V3：どちらでもない
V4：かなりあてはまる　V5：非常にあてはまる

Ⅱ．授業評価の比較

授業評価アンケートの35項目および総合評価を尋ねた質問について、実施期による差異があるかどうか検討するために、実施期間を要因とした1要因の4群間の分散分析を行った。表5は、各項目の平均値および標準偏差を示したものである。

表5　各項目の平均値とコース別平均値（標準偏差）・F値

	1期	2期	3期	4期	全体	F値
1.スクーバダイビングの基礎的な技術が習得できた	4.58(.57)	4.50(66)	4.51(55)	4.70(52)	4.57(58)	1.04
2.海、水中でのルール、エチケット、マナーが理解できた	4.54(.58)	4.39(75)	4.71(46)	4.58(55)	4.55(60)	2.25
3.スクーバダイビングの理論が理解できた	4.23(67)	4.25(58)	4.18(75)	4.48(55)	4.28(65)	1.72
4.自然環境を認識することができた	4.52(61)	4.34(71)	4.51(59)	4.48(64)	4.46(64)	0.76
5.危険性の認識と自己の安全の確保について理解できた	4.50(64)	4.54(55)	4.56(50)	4.73(51)	4.57(56)	1.34
6.友人や教師とのコミュニケーションについて理解できた	4.58(64)	4.52(63)	4.44(72)	4.70(46)	4.55(63)	1.22
7.集団生活のルール、エチケット、マナーについて理解できた	4.37(71)	4.50(63)	4.47(69)	4.60(55)	4.48(65)	1.00
8.ダイビングを通じての水中の楽しみ方について理解できた	4.85(41)	4.75(44)	4.56(59)	4.85(36)	4.75(47)	4.09 *
9.生涯スポーツとしてのスクーバダイビングを認識することができた	4.60(63)	4.61(58)	4.44(84)	4.50(70)	4.54(69)	0.62
10.自己の能力水準が理解できた	4.33(79)	4.48(55)	4.20(81)	4.53(72)	4.38(73)	1.80
11.ダイビング用具の扱い方および基本操作が習得できた	4.60(50)	4.70(46)	4.58(54)	4.78(42)	4.66(49)	1.60
12.スクーバダイビングの基礎的技術(潜降・浮上・中性浮力の確保)が習得できた	4.33(68)	4.50(63)	4.36(65)	4.55(50)	4.43(62)	1.37
13.水中でのアクシデントの対処法(レギュレータクリア・マスククリア)が習得できた	4.69(54)	4.59(62)	4.51(73)	4.75(44)	4.64(60)	1.39
14.水中でのアクシデントの対処法(オクトパス呼吸・緊急浮上)が習得できた	4.52(54)	4.54(50)	4.27(76)	4.65(48)	4.49(59)	3.40 *
15.運動量は十分に確保されていた	4.49(61)	4.30(82)	4.51(63)	4.43(78)	4.43(71)	0.84
16.理論と実技を関連づけて学習できた	4.25(62)	4.36(61)	4.18(69)	4.53(51)	4.32(62)	2.52
17.オリエンテーションは良かった	4.44(64)	4.36(81)	4.24(74)	4.54(60)	4.39(71)	1.38
18.班分けの方法は適切であった	4.37(95)	4.29(90)	4.33(95)	4.53(75)	4.38(90)	0.52
19.夜の講義は良かった	4.33(71)	4.57(76)	4.13(97)	4.65(58)	4.41(79)	4.07 *
20.資格を取得できるシステムは良かった	4.65(68)	4.79(51)	4.82(39)	4.87(40)	4.78(52)	1.56
21.VTRを活用することは良かった	3.94(96)	4.05(1.09)	4.00(95)	3.87(1.00)	3.97(99)	0.24
22.釣りのプログラムは良かった	3.10(1.29)	3.33(1.25)	3.00(1.49)	3.92(1.03)	3.31(1.32)	4.32 *
23.授業の時間配分は適切であった	4.27(84)	4.07(86)	3.87(1.16)	4.33(76)	4.13(93)	2.29
24.テキスト・教材は良かった	4.46(75)	4.37(76)	4.40(62)	4.65(48)	4.47(67)	1.44
25.授業は創造性に富むものであった	4.23(90)	4.14(82)	4.13(69)	4.53(64)	4.25(79)	2.32
26.教師は十分な知識を持っていた	4.85(50)	4.73(69)	4.67(64)	4.85(36)	4.77(57)	1.16
27.教師は十分に準備し熱意を持っていた	4.81(44)	4.73(69)	4.69(67)	4.93(27)	4.78(55)	1.52
28.学生間のコミュニケーションは十分であった	4.52(64)	4.55(63)	4.42(72)	4.67(53)	4.53(64)	1.04
29.授業において理解を助けるための補助手段は適切に用いられていた(資料・実施要項・VTR・フリー練習・テストなど)	4.42(67)	4.36(89)	4.33(67)	4.58(59)	4.42(72)	0.94
30.教師とのコミュニケーションは十分であった	4.40(72)	4.52(70)	4.16(90)	4.63(49)	4.42(74)	3.37 *
31.この授業から自分の期待していたものが満足された	4.60(72)	4.57(73)	4.47(73)	4.70(56)	4.58(69)	0.82
32.専門野外教育。「スクーバダイビング」は大学の授業としてふさわしい	4.81(53)	4.80(46)	4.71(63)	4.95(22)	4.81(49)	1.72
33.私は、この授業で真剣に学ぼうと努力した	4.79(67)	4.70(55)	4.82(39)	4.88(40)	4.80(52)	0.79
34.私は、この授業期間を通じて常に出席しようと心掛けた	4.87(53)	4.77(42)	4.58(69)	4.88(46)	4.77(55)	2.97 *
35.私はこの授業を他の学生に薦めたい	4.79(50)	4.75(53)	4.73(54)	4.90(44)	4.79(51)	0.91
総合評価						
授業の総合評価(非常に悪かった:1点～非常に良かった:5点)	4.78(46)	4.81(55)	4.71(46)	4.90(31)	4.80(46)	0.31

*p<.05

分散分析の結果、危険率５％以内を有意差ありと判定した。有意差ありと判定された後は、最小有意差法（LSD法）によるグループ間の比較を行った。有意差があった項目は、「8.ダイビングを通じての水中の楽しみ方について理解できた，F(3,177)＝4.09」、「14.水中でのアクシデントの対処法（オクトパス呼吸・緊急浮上）が習得できた，F(3,177)＝3.40」、「19.夜の講義は良かった，F(3,177)＝4.07」、「22.釣りのプログラムは良かった，F（3,175)＝4.32」、「30.教師とのコミュニケーションは十分であった，F（3,177)＝3.37」、「34.私は、この授業期間を通じて常に出席しようと心掛けた，F（3,177)＝2.97」の６項目であった。LSD法による多重比較では、「8.ダイビングを通じての水中の楽しみ方について理解できた」、「14.水中でのアクシデントの対処法（オクトパス呼吸・緊急浮上）が習得できた」の２項目において、３期が他の３群に比べ有意に低く、「30.教師とのコミュニケーションは十分であった」では、３期が２期および４期に比べて有意に低かった。「34.私は、この授業期間を通じて常に出席しようと心掛けた」では、３期が１期および4期に比べて有意に低く、「19.夜の講義は良かった」においては３期が２期・４期と比較して有意に低く、１期も４期に比べて低いという結果が得られた。「22.釣りのプログラムは良かった」では、４期が１期・２期・３期のいずれと比べても有意に高かった。全体的な結果を概観すると、第３期の評価得点は、他に比べ低調であり、逆に４期は高い評価を得ている。１・２期は平均値と近い値を示しているようであった。

これらの差が生じた原因を考えてみると、一つは海の状況・天候・季節の善し悪しがかかわっていると思われる。実習場所である海は、静かで波少ない安全なダイビングスポットを選んではいるが、風の向きや潮の流れ、水中の透明度、天候などはコントロールすることができない。こういった自然環境に効果や評価が左右されてしまうことは、野外教育活動の提供においてはある程度覚悟しておくべきである。しかしながら、悪条件のなかでもできるだけの効果が得られるような実践や対策が取られたかどうかということを指導側は評価していく必要があろう。また、一つには参加する学生のモチベーションに関わっていたり、学生集団の雰囲気に左右されることもあるであろう。これらの対策としては、事前のオリエンテーションをより充実させることや、コミュニケーションを教員側からとっていくような働きかけやプログラムの構成も必要となってくるであろう。さらに、開講期によって指導者若干名の入れ替わりがあるため、教師とのコミュニケーションの問題が生じることも考慮しておかなければならないことが示唆された。

Ⅲ．学生の自由記述による授業評価

スクーバダイビング実習に対する学生の率直な意見を引き出すために、自由記述欄を設け、良かった点、改善すべき点、その他について記述を求めた。自由記述は参考資料１のようにまとめることができた。良かった点では、「ダイビングを習得できた」、「資格が取得できた」、「自然環境に直接触れることが出来た」、「指導者が良かった」、「友人や教師とのコミュニケーションがとれた」、「今後また活動したい」など多くの意見があげられた。一方、改善すべき点においては、「エアコンにお金が必要だった」、「風呂が狭い」、「食事がよくなかった」など宿舎での生活に関する事項があげられている。プログラムに関しては、「待ち時間が長かった」、「潜水時間が短かった」、「潜水回数を多くして欲しい」などの意見があった。これらの点を、可能な限り改善するような働きかけが必要とされいると考えられた。また、ここに現れた生活に関する項目についても、集団生活することを前提とした野外教育の授業では授業評価票に組み入れていく必要があろう。

参考資料1. スクーバダイビング実習に対する意見・要望など（＊印は、複数以上回答）

＜良かった点＞

・１班あたりの人数がちょうど良かった
＊ダイビングという普段経験できないことを経験・習得できた
＊ダイビングの楽しさを知ることができた
・みんなが初めてで経験レベルが同じだった（生徒間の能力差がなかった）こと
・海の美しさや楽しさ、すばらしさを知った
・海中生物を直接観察したり写真を撮ることが楽しかった
・基礎的な技術を習得することができた
・気のあったもの同士によるグループ分けはよかった
＊魚への餌付けや水中写真など貴重な体験ができた
＊個人のレベルにあった指導を受けることができた
＊今後また活動したいと思う
＊指導者の指導が良かった
＊指導者の丁寧な指導により、基礎的な技術を習得することができた
＊資格を取得できた
＊時間に余裕があり活動しやすかった
・生活面での拘束が少なく自主性を尊重した実習ができた
・潜水前の説明が理解しやすく不安や緊張がなかった
＊仲間との親睦を深めことができた
＊釣りが楽しかった
・二日目以降の２グループ制は良かったと思う
＊非日常的な世界を体験できた
＊海に潜ることの楽しみ方を覚えた
＊学生と指導者のコミュニケーションがよくとれ明るい雰囲気だった
＊今まで見たことのない水中の景色が見ることができた
・指導者が変わったこと
・指導者の人間性の豊かさ
・時間的に集中して中身の濃い授業ができた
＊自然の中での危険な生物や危険な行為を理解できた
・実習場所がよかった
・新しい世界を発見し体験できた
・水中で相手と意志の疎通ができたことに感動した
・水中に長い時間いることができた
＊水中生物を身近に観察できたり触れることができた
・素潜りでは見ることのできない世界がみれた
・大学時代のよい思い出になった
＊直接自然に触れる体験ができた
・夜の講義が大変おもしろく理解できた
・海がきれいだった
・海での活動の幅が広がった
＊海の中で呼吸ができたこと
・自然を感じることができた
・少人数の班編成で充実した実習ができた
＊友人との信頼関係が築けた
＊水中で呼吸ができたことが感動した
・集団行動の大切さを知ることができた
＊指導者や友人との交流を深めることができた

＜改善すべき点＞

＊エアコンに金が必要だった
・洗濯ができなかった
＊食事が悪かった
・もう少しゆっくりとした日程を過ごしたかった
・生徒同士のコミュニケーションがとれなかった
＊お金がかかる
＊風呂が狭かった
・実習前に基本事項を学ぶことが必要
＊つりが良くなかった
＊待ち時間が長かった
＊潜水回数を多くしてほしい
・班編成の仕方が良くなかった
＊潜水時間が短かった
・事前の説明と実習の期間が長過ぎた
・実習が土日になったため人が多かった
＊宿の設備が良くなかった
・喫煙者と部屋をしっかりと分けてほしい
・実習期間をもっと長くしてほしい
・もっと写真をとりたかった
・エアコン、テレビに100円が必要なのは良くない
・全体の人数が多いのではないか

＜自由記述による感想＞

＊非常に楽しかった
＊これからも続けていきたい
＊指導者が非常に良かった
・初めて釣りをしてとても楽しかった
＊もっとたくさん潜りたかった
など

まとめと今後の課題

本調査研究は、1998年８月～10月に、４期にわたって行われた集中実技「スクーバダイビング実習」の履修者を対象に、アンケートを用いて授業評価を行った。その結果は、以下のようにまとめることができる。

１．総合的評価は非常に高く、97.2%の受講者が「まあ良かった」および「非常に良かった」と回答した。35項目のなかでは「22.釣りのプログラムはよかった（46.4%）」、「21.VTRを活用することは良かった（67.4%）」、「23.授業の時間配分は適切であった（78.4%）」の３項目が、他の質問項目の回答結果と比べて数値が低く、今後に課題を残す形となった。すなわち、授業の方法に関しては若干ではあるが改善の余地が残されていることを示しているものと考えた。

２．開講期による差異を検討するため、期ごとの平均値について４群間の分散分析を行ったところ、６項目において有意差がみられた。このことは開講時期による天候・海況の違いや各期に参加した受講生におけるモチベーションの差異が予測された。加えて、教師ー学生間のコミュニケーションの更なる必要性が示された。

３．自由記述は参考資料１のようにまとめることができた。良かった点では、「自然の中でのダイビングを体験し、その技術を習得できたこと」、「資格が取得できたこと」、「友人や教師とのコミュニケーションがとれたこと」など多くの意見があげられた。一方、改善すべき点においては、宿舎での生活に関する事項があげられた。実習プログラムに関しては、「待ち時間が長かった」、「潜水時間が短かった」、「潜水回数を多くして欲しい」などの意見があった。これらの点を、可能な限り改善するような努力と働きかけが必要とされいると考えられた。加えて、集団生活することを前提とした野外教育の授業では宿舎の快適性や食事などの生活面などの宿舎生活に関する項目についても授業評価票に組み入れていく必要が示唆された。

今後の課題としては、野外教育に関する授業評価のデータを蓄積していく必要性があげられる。加えて、授業の評価がどういった要因と深く関わっているのかということについて調査していくことも求められる。

引用・参考文献

1) 本間崇・千足耕一・布目靖則・南隆尚：正課体育スキー実習における学生による授業評価，筑波大学体育センター大学体育研究，**17**：37-48，1995.
2) 川嶋直：プログラムの評価手法，野外教育指導者読本98-99，野外教育指導研究会，東京，1999.
3) 舛本直文・綿祐二：大学体育における学生評価２．「保健体育講義」と「体育実技Bコース：マリン」の経年変化を中心に，東京都立大学体育学研究，**18**：61-67，1993.
4) 野口和行・吉田泰将・佐々木玲子・村山光義：集中授業「アウトドアレクリエーション」における学生による授業評価―経年変化及び参加者が意識する効果について―，慶応義塾大学体育研究所紀要、**38**(1)：67-74，1999.
5) 多田聡：冬季野外活動実習における授業評価と指導者の社会的勢力，野外教育研究，**2**(1)：21-29，1998.
6) 綿祐二・舛本直文：大学体育における学生評価１．「体育実技Bコース：スキー」における学生による授業評価，東京都立大学体育学研究，**18**：53-59，1993.